

学校支援地域本部事業実践現場訪問

教職員地域学習 ～教職員への支援～ 登米市立米川小学校

1 はじめに

登米市では、地域と学校をつなぐ仕組みをつくり、社会の中でたくましく生きる子どもたちを地域全体ではぐむため、東和中学校区の中学校1校、小学校3校を対象とした「登米市東和地区学校支援地域本部」を発足し、協働教育の推進に力を入れています。学校支援活動は、「学習支援活動」「部活動指導」「登下校安全指導」「学校行事の協力」「環境整備・清掃」など多岐に渡って実施されています。登米市東和地区の学校支援活動は今年で3年目を迎え、今年度は、101名の地域の方々が学校支援ボランティアに登録しています。

子どもたちの健全な育成と学力向上を図ることを目的に、今年度は、「合宿研修での座禅会」「起業学習での取組で講演会、品物仕入れ、品物製作、品物販売」「職場体験学習」が東和中学校で、「読み聞かせ活動」「環境整備」などが各小学校で行われています。これら登米市の学校支援の活動の様子は、各報道機関にも取り上げられ紹介されています。

2 実施日 平成22年8月2日(月)

3 場 所 登米市立米川小学校・米川小学校区

4 取組の概要

今回の教職員地域学習は、学校の統廃合による職員の異動などで米川小学校に長く勤める先生がいなくなり、「学区内の様子や歴史が分からず、地域学習への取組が困難になってきた」「教職員が地域を知り、地域のことを子どもたちに学ばせたい」という学校側の願いを受けて実施されたものです。

校長先生以下11名の米川小学校職員が参加し、午前8時30分に米川小学校をスタートして正午過ぎまで17か所の遺跡、神社、建物を巡りました。案内・説明して下さったのは、学校支援ボランティアの方(登米市文化財保護委員の菅原さん)です。米川地区は、隠れキリシタンが身を寄せた地区で関係する多くの旧跡があるところです。米川小学校から車で数分、山を登った場所に「海無沢三経塚キリシタン遺跡」があります。菅原さんから、「享保年間、キリシタン宗徒120名が処刑され、三か所に埋められたと伝わる塚」と詳しい説明がありました。また、米川カトリック教会では、学校支援ボランティアの方(佐藤さん)に教会の案内や貴重な話をいただきました。

米川小学校の大沼校長先生は「今回の教職員地域学習で、教職員が地域の歴史を学ぶことができた。学んだことを子どもたちの学習に生かしていきたい。」と話されていました。

5 米川小学校を訪問して

8月の太陽がざらざらと照りつける猛暑日でしたが、熱心に説明をなさる学校支援ボランティアの方々、熱心に話を聞く先生方、そして、ボランティアと学校の調整を行ったコーディネーターの姿がとても印象的でした。地域のことを知り、それを子どもたちの学習につなげていく学校側のねらい、名所、旧跡など貴重な地域素材の由来や歴史を語り継ぎ広めようとする地域の方々のねらいが結びついた活動でした。直接子どもたちの支援を行う活動ではありませんが、先生方の学びが子どもたちの地域学習に生かされる取組でした。

【取組の様子】



熱心に説明する学校支援ボランティアの菅原さん。



八幡神社の由来について、輪になって話を聞く先生方。



不動尊像が川を流れ下り、この付近で拾われ祀られたので「流れ不動尊」と説明がありました。



米川小学校の大沼校長先生と学校支援ボランティアの菅原さん。



どこにでもある石仏、一般的には「庚申塚」と呼ばれる石造物と説明がありました。



この日は気温35度を超える猛暑日でした。



学校支援ボランティアの佐藤さん。



米川カトリック教会の詳しい説明がありました。